

2 日本語日本文学科の教育課程紹介

日本語日本文学科では、日本語や日本文学に関心を抱く学生がより高度な専門知識を身につけ、その豊かな感受性を存分に開花させることを願って、共通科目群や学部共通科目との連携の上に、日本語学・日本文学・日本語教育の主要科目と教職科目を設定して様々な学問的要請に応える態勢をとっています。

本学科には、卒業論文履修分野として日本語学・日本文学・日本語教育・地域文化・人文学の5分野があります。分野とは、卒業論文の作成にむけて、必修科目の他にどのような科目を選択・履修してゆけば、その具体的な知識や能力が得られるのかを示した、大まかな道筋のことです。本学科学生としての共通の必修科目や必修単位数はありますが、半分以上の単位は学生の選択に任されています。自分の適性・卒業論文の分野・卒業後の進路等を考えて5つの分野のいずれかに重点を置いた授業選択をしてほしいと思います。したがって、入学後はただ漫然と過ごすのではなく、自分の関心にあわせた授業選択をしながら、2年次以降に専攻する分野のイメージを固めていくことが重要です。

日本語学分野は、ことばについて研究したい、研究をしようという人の分野です。アプローチのしかたはいろいろです。大きく見渡しても、文法、日本語の歴史、語彙、表記、辞書、方言と、様々な角度から取り組むことができます。

日本文学分野は、日本の古代から近現代にいたる文学作品を研究します。実際には、研究領域の拡大にとまない、あらゆる文献・書物が研究対象といってもよいでしょう。読書の形態、学問の歴史、造本・書写・印刷など書物に関する研究なども、対象とみなします。

日本語教育分野は、日本語教師を目指す人、非母語話者による日本語習得のメカニズムを研究したい人などを対象とした分野です。日本語教員養成課程で日本語教育の基礎的な知識、教授法に関する専門的知識・技術を学びつつ、卒業論文では非母語話者による日本語の習得という複雑な現象を、調査や実験といった客観的手法を用いて研究します。

地域文化分野は、地域のことばや文化・歴史を学びながら、フィールドワークなどを通じて体験的に知識を深化させていき、文献資料を基礎に地域を研究することをめざす分野です。提供されるプログラムは専ら熊本を対象としたものですが、卒業論文では関心にあわせた対象地域を選んで研究ができます。

人文学分野は、日本のことばや文学を、異文化、異言語との比較の観点から掘り下げようという場合、あるいは歴史学や日本の文化とかわらせながら探究したい人のための分野です。

本学科の授業は、下級生向けには、基本的なもの、広い範囲を扱う「概論」や「基礎論」、上級生向けには、特殊な問題を深く掘り下げる「演習」や「特殊研究」が多く配置されています。すなわち、まずは「概論」や「基礎論」などで基本的な知識や方法論を身に付け、次に「演習」において研究対象を深く掘り下げて考える実践的訓練を積み、さらに「特殊研究」において教員の専門とする分野の細かい指導を受けながら卒業論文を作成する、という手順になっています。また、研究テーマの確定やその調査研究はじっくりと時間をかけて行う必要があるため、「演習」や「特殊研究」は同一教員の科目を複数年次にわたって受講できるようになっています。(但し分野により違いがあります。また、人数が多すぎる場合は制限されることもあります。)

【日本語日本文学科の卒業要件単位数、開講科目一覧表及び履修上の注意】

- 1 25頁の「卒業要件単位数」表の専門科目の部分の詳細に説明したものが31頁の「日本語日本文学科カリキュラムの概要」です。履修上の注意を参考によく読んで、単位の取り落としのないように気をつけてください。
- 2 教員免許関係と日本語教育関係の科目・単位については当該ページを参照。多くは本学科の主要科目に含まれていますが、学部共通科目から選択履修しなければならない科目もあるので注意してください。

(1) 日本語日本文学科の進級要件

- ア 2年次までに、合計50単位以上修得しなければ3年次に進級できません。
- イ 卒業論文の履修資格は、卒業予定年次の前年度末において共通科目群及び専門科目群から合計80単位以上を修得した者に与えられます。

(2) 日本語日本文学科の卒業要件

4年以上在学し、次の単位数以上を修得しなければなりません。

| 区分 | 分類 | 分野 | | 卒業要件単位数 | | | |
|---------------|---------------|---------------|------------------------------------|---------|---------|-------|-------------------------|
| | | | | 必修単位数 | 選択必修単位数 | 選択単位数 | |
| 共通科目群 a | 基盤科目 | 外国語 | Basic English I～VI | b | 6 | — | ※その他の単位 (左の他に4単位を修得) |
| | | | 英語以外の外国語 | c | — | 4 | |
| | | | bとc以外の科目 (Basic English以外の英語科目) | d | — | — | |
| | | 健康スポーツ科学 | e | 2 | 1 | | |
| | | 情報処理とデータサイエンス | f | 6 | — | | |
| | | キャリアデザイン | g | 2 | — | | |
| | | 地域理解とリーダーシップ | もやいすと(地域)ジュニア育成 | h | — | 2 | |
| | | | もやいすと(防災)ジュニア育成 | | | | |
| | | | 新熊本学 | i | — | 2 | |
| | | | hとi以外の科目 | j | — | — | |
| | 教養科目 | 人間と文化 | k | — | 2 | | |
| | | 自然と環境 | l | — | 2 | | |
| | | 社会と世界 | m | — | 2 | | |
| | 小計(A) | | | | | 16 | 15 |
| | | | | | 35 | | |
| 専門科目群 ① | 人文基礎 | ② | | | | 4 | 左の他に12単位を修得 |
| | 主要科目 | ③ | 25 | | | 12 | |
| | 学部共通科目 | ④ | | | | 8 | |
| | 演習 | ⑤ | | | | 12 | |
| | 特殊研究 | ⑥ | | | | 4 | |
| | 卒業論文 | ⑦ | 6 | | | | |
| | 小計(B) | | | | | 31 | 40 |
| | | | | | 83 | | |
| 自由選択単位ア | 共通科目(Aを超える単位) | | | イ | | | 7 |
| | 専門科目(Bを超える単位) | | | ウ | | | |
| | 他学部・他学科の専門科目 | | | エ | | | |
| | 小計(C) | | | | | | |
| 合計(A)+(B)+(C) | | | | | 125 | | |

『共通科目群』

- 必修科目16単位、指定された選択必修科目15単位、それ以外に共通科目群の選択科目より4単位(その他の単位:共通科目群aの※部分)の合計35単位以上を修得すること。
- 英語は「Basic English I」から「Basic English VI」の6科目6単位を必修とする。
- 英語以外の外国語は、ドイツ語、フランス語、中国語及び韓国語(それぞれ入門A I、入門A II、入門B、基礎、発展I、発展II)から1言語4単位以上を選択必修。文学部の学生は1年次前期で「入門B」を、後期で「基礎」を履修すること。
- bとc以外の外国語を修得した場合はその他の単位もしくは自由選択単位アのイに含む。
- 「健康の科学」は必修とし、「生涯スポーツ実習I」「生涯スポーツ実習II」から1科目1単位を選択必修とする。
- 「情報処理入門」「データサイエンス入門」「データサイエンス演習」は必修とする。
- 「プレゼминаール」「キャリア形成論」は必修とする。
- 「もやいすと(地域)ジュニア育成」「もやいすと(防災)ジュニア育成」から1科目2単位を選択必修とする。
- 新熊本学は4科目8単位から1科目2単位を選択必修とする。
- 地域理解とリーダーシップのhとi以外の科目を修得した場合はその他の単位もしくは自由選択単位アのイに含むことができる。
- k, l, m 各分野からそれぞれ1科目2単位以上を選択必修とする。

『**専門科目群**』 ①は、②人文基礎中の4単位、③主要科目中の必修科目25単位及び選択必修科目12単位、④学部共通科目中の8単位、⑤演習中の12単位、⑥特殊研究中の4単位並びに⑦卒業論文6単位を含む、合計83単位以上を修得すること。ただし、⑤の演習12単位中に、日本語学演習ⅠからⅩ及び日本語教育演習ⅠからⅣのうちから4単位以上を、また、古代文学演習ⅠからⅢ、中世文学演習ⅠからⅢ、近世文学演習ⅠからⅢ、近代文学演習ⅠからⅢ、及び日本文学演習ⅠからⅡのうちから4単位以上を含むこととする。なお、②～⑦を合わせると71単位であり、専門科目群の必要単位数83単位には不足する。この足りない12単位は、②～⑥のいずれからでも選択できる。

『**自由選択単位**』 アとは、共通科目群の必要単位数35単位と専門科目群の必要単位数83単位を合わせても118単位であり、卒業に必要な単位数の125単位に不足する。この足りない7単位を、自由選択単位として、イ、ウ、エのいずれからでも選択できるようにするものである。

イ 共通科目群の必要単位数35単位を超えて修得した単位数。

ウ 専門科目群の必要単位数83単位を超えて修得した単位数。

エ 所属学科の専門科目群に含まれていない他学部・他学科の専門科目の単位を自由選択単位の中に入れることができる。(履修方法等は36頁の「他学部・他学科開講科目の履修について」を参照。)